

YOKOHAMA

第二支部だより

中区・西区・南区・港南区・磯子区・金沢区

**July
2014.7 No.58**

公益社団法人 神奈川県看護協会
横浜第二支部

発行責任者 杉 浦 由 美 子



ごあいさつ

横浜第二支部長 杉浦 由美子

梅雨の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年度も6月10、11、12日に、日本看護協会総会、6月20日に神奈川県看護協会総会が開催され活動が始まりました。横浜第二支部におきましても6月30日に総会を開催し、今年度の事業計画を報告させていただきました。会員の皆様には、横浜第二支部活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げます。私は、今年度より横浜第二支部長を拝命いたしました、横浜市立大学附属病院の杉浦由美子と申します。不慣れな点も多いかと思いますが、近藤前支部長が進めてこられた事業を大事にし、さらに第二支部の発展を目指に頑張っていきたいと考えております。今後ともよろしくお願ひいたします。

先日、日本看護協会から協会ニュース号外が届きました。『医療介護総合確保推進法が成立』との内容で、2025年問題が現実のものとして稼働し始めたと実感いたしました。日本看護協会総会で坂本すが会長が、『医療が病院中心から地域・在宅へパラダイムシフトする中、私たち看護職は、どこにおいても【人々の暮らしと医療を支える】視点が求められる』と指摘されております。いわゆる2025年問題に向けて、看護職は一丸となって取り組む必要があります。横浜第二支部においても、社会背景、動向をつかみ、会員・非会員を問わず看護職皆様のニーズをしっかりと把握し、事業を進めて行きたいと考え、今年度も研修等を企画しております。医療福祉現場は、ますます変革をもとめられ、多忙を極めていると思われますが、ぜひ看護職の皆さまの参加をお待ちしております。

最後に、役員の皆様方のご尽力により今年度の支部だよりが発行でき、個人および各施設へお届けできましたことを感謝し、あいさつとさせていただきます。

新人看護師のインシデントの傾向とその教育方法について



国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
安全管理対策室 師長 滝口 由紀子

当院は、地域に密着した急性期病院（病床数655床、看護体制7：1）です。私は、専従の医療安全管理者として院内の医療安全に取り組んでおります。日々、さまざまな事象報告を受けますが、その中で新人看護師のインシデントの傾向、教育方法について報告させていただきます。

新人看護師の事象報告で気になるのは、看護や処置の根拠を習得できないまま行動していることです。「うっかりミス」より「知識不足」のインシデントの傾向があると感じています。例えば、検査前の延食指示のところ、食事を配膳し患者が食べてしまうインシデントで「なぜ延食指示なのか？」と聞いても「え～と??」と、検査と食事の関連を理解できていないことがあります。この「なぜ？」を理解させることが新人教育で重要になると思います。新人看護師の知識不足は当然であり、忙しい臨床現場の中で多岐多様にわたる看護業務の教育を受け、習得することが山積みです。その過程の中で「なぜそのケア、処置が必要なのか」と考えながら習得することが大切です。現場教育では、方法「How」だけでなく、なぜ「Why」を伝えることが重要になります。

当院では「なぜ？」を自ら考え行動できるよう、新人看護師対象に転倒した患者の対応についてシミュレーション研修を行いました。「なぜ、手足の動きを観察するのか？」「なぜ、瞳孔所見を観察するのか？」と考えてもらいます。「先輩が言っていたから」「観察項目にあるから」では、根拠がわからず観察していることになります。患者に何が起こっているのかアセスメントする能力やリスク感性を養うためにも体験を通して学習できるシミュレーション教育は効果的だと思います。また、何回失敗を繰り返しても患者へのリスクは生じず、安全な環境下で学習ができます。

シミュレーションでは、先輩看護師への報告についても体験し学習します。どのように報告し応援を求めるか考えてもらいました。臨床現場でも、先輩看護師に声をかけるタイミングを伺う新人看護師がいます。「わからなければ先輩に何度も確認すること。わからないまま、行わないこと。」と繰り返し伝えていますが、「忙しそうで声がかけられなかった」と聞くことがあります。私たち人間は、一度聞いても、直ぐに忘れてしまうものです。一度経験したからと言って直ぐに習得できるものではありません。患者の安全のため、わからないことは勇気を出して先輩看護師や医師に確認との大切さを伝えています。また、受け手の先輩看護師は、「また聞くの？」ではなく、新人看護師のSOSを感じ取り、何がわからないのか確認し、看護ケアや処置の根拠を伝えることが大切です。指導者の労力も相当なものですが、「確認してくれてありがとう」の姿勢で新人看護師が聞きやすい環境作りも大切だと思います。指導者は経験を通して伝えていますが、新人看護師は全く経験のない中で指導者の話を聞いているので、違う解釈をしている可能性があります。伝えた通りに新人看護師が理解しているか繰り返し確認していただきたいと思います。知っているのにできなかつた時も「なぜできなかつたのか」「なぜ正しいと判断したのか」確認してください。知識と行動が結びついていないことがあります。是非、皆さんが培った看護の根拠や経験を新人看護師に伝えて下さい。

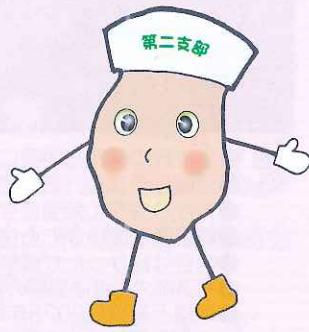
施設紹介



横浜第二支部



済生会南部 訪問看護ステーション



星野 早苗

済生会南部訪問看護ステーションは、平成9年に設立され、訪問看護事業を開始しました。担当看護師が利用者様のお宅を訪問し、病状の経過観察・療養介護相談・清潔の支援在宅医療処置管理・服薬管理・リハビリテーション・家族看護・栄養指導・認知症や終末期の看護などをおこなっています。現在看護師25名（兼務11名）で緩和ケア認定看護師が2名所属しています。平成25年度の利用者数は、3,226名（月平均268.8名）訪問回数は15,102回（月平均1,258.5回）です。

疾患別利用者割合は、悪性新生物18%、脳血管疾患14%、神経難病11%、骨筋肉系10%、心疾患9%、呼吸器疾患9%、精神疾患系7%、泌尿器・腎疾患5%、その他17%でした。在宅看取り件数は、64名と年々増加してきています。

また、24時間の対応体制をとっている事、今年6月から機能強化型訪問看護ステーションの指定を受け、安心して在宅療養して頂けるよう努力しております。

平成12年からは、居宅介護支援事業を開始し、現在ケアマネジャー専任2名と兼任4名の計6名で活動しています。平成25年度の利

用者数は、1,105人（月平均92.1人）でした。看護師の資格を有するケアマネジャーが4名おり、医療依存度の高い方やがん末期や神経難病の方々のケアプランを作成し、生活を支えています。

平成20年には、医療処置や病状の変化から通常のデイサービスを利用する事が出来ず、介護負担の大きい方や常時看護師の観察が必要な方々を支援するために、療養通所事業を開始しました。職員は、看護師6名、ヘルパー3名、運転手1名です。1日の利用定員は5名で、状態観察や排泄の支援、入浴介助、リハビリテーションなどを行っています。平成25年度の利用者の疾患別人数は、ALSが6名、脳梗塞3名、脳出血3名、多系統萎縮症2名、悪性新生物2名、パーキンソン病2名、多発性骨髄腫1名、慢性炎症性脱髓性多発神経炎1名、頸椎損傷1名、その他6名です。

これらの3事業を行うことで事業所内の連携がスムーズで迅速な対応ができ、退院調整から在宅療養まで、医療機関や地域・多職種との連携を図り、利用者様およびご家族の人格や意思を尊重し、その人らしい生活が安全安楽に送れるよう支援しています。

利用者様や介護される方々との出逢いやつながりを大切にし、利用者様やご家族の喜びや生きがいに繋がる看護を提供できるよう、一緒に喜び悩み考えながら活動しています。



支部大会 講演会「2014年度診療報酬改定にみる日本の医療提供体制の方向性」



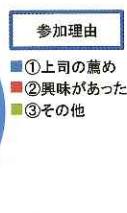
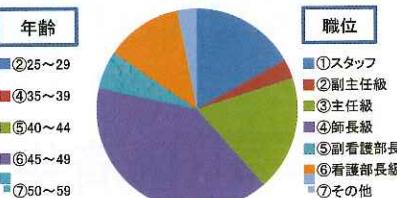
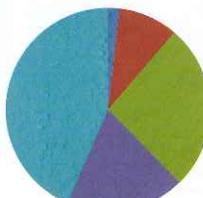
日 時 6月/30日 13:30~16:00

場 所 神奈川県総合医療会館

講師名 兵庫県立大学大学院経営研究科教授 筒井 孝子先生

感想

- 医療界の現状を明確に認識できた
- 理解しやすく、意味のある講演だった（複数）
- 分かりやすく勉強になった
- 管理者に聞いてもらいたい内容だった
- 内容は良かったが資料が見にくい（複数）
- 同講師の看護必要度の研修を受けた後であったため、更に理解を深められた
- 地域と連携し2025年問題に取り組んでいくことの必要性と具体的な計画を考えることができた
- 地域と病院の連携が大切である事を再認識する内容であった
- 専門的で難しい点も多かったが、根本的な概念も理解することができた
- 今後の政策に対する意味や方向性が理解できた
- 組織としてどう取り組むべきか整理が出来た
- 地域包括ケアシステムについて、もっと詳しく聞いたかった
- Integrated careの概念が良い学びとなつた



新役員紹介

(役員会計)

横浜南共済病院
佐々木 智子

(役員会計)

横浜市立みなと赤十字病院
角藤 厚美

(役員書記)

神奈川県立循環器呼吸器病センター
安江 佳子

(役員広報)

独立行政法人地域医療機能推進機構
横浜中央病院附属看護専門学校
戸田 法子

(副支部長)

神奈川県警友会けいゆう病院
佐藤 一代

(役員書記)

済生会横浜市南部病院
神保 美香

(支部長)

横浜市立大学附属病院
杉浦 由美子

(副支部長)

横浜市立大学附属病院
高橋 宏子



退任ごあいさつ

8年間の想い

横浜第二支部旧支部長 近藤美知子

8年間支部長として役割を務めさせていただきました。その間多くの支部役員との出会いがありました。それは私にとっての一つの糧であり、多くのことを考え学ばせていただいた期間でもありました。長いようで短かった8年にも思えます。これからは一員として協力していきたいと思います。神奈川県看護協会及び横浜第二支部の発展を祈願しております。

けいゆう病院 金子 淳子

支部役員として、書記・会計・副支部長の役割を経験して月1回の会議での研修の企画運営の大変さがよく分かりました。

ニーズ調査・訪問看護ステーションやテルモ施設見学、そして地域連携シンポジウムと企画に携わり、役員会での他の施設の役員との情報交換など様々な貴重な時間を経験をさせて頂きありがとうございました。

済生会横浜市南部病院

石田 晃代

2年間の活動を通し、他施設との連携や情報交換、情報発信の大切さを改めて感じました。

支部長はじめ、ご指導いただきました方に感謝いたします。

伝言板

看護協会・横浜第2支部への
要望・意見等を下記に頂きます
ようお願いします。

〒231-0037

横浜市中区富士見町3-1

TEL:045-263-2901

FAX:045-263-2905

Mail:kanakan1@basil.ocn.ne.jp

編集後記

長年にわたり、支部活動の基盤を作られた前近藤支部長から新たに杉浦支部長を迎えて26年度支部活動が開始致しました。今後とも役員一丸となり支部活動の運営をしていく所存です。今後とも皆さまのご支援を頂戴致したく存じます。

今後の支部活動予定

- ・9月 5日(金)リフレッシュ研修
- ・10月16日(木)メンタルヘルス研修
- ・11月20日(木)医療安全
- ・12月11日(木)地域医療連携シンポジウム
- ・2月19日(木)看護研究発表会